

専如門主、和歌山へ巡回□1
 阿弥陀さまと私□2
 新・祖蹟点描□3
 伝灯奉告法要特集□4
 ご巡回、ご巡拝特集□6
 青色青光□8
 響流十方□10
 つれもて聴こら□12



「紀伊国名所図会」に描かれた江戸時代後期の参集御坊

2016年(平成28年)
 7月1日
 第109号

発行：「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員会 〒640-8053 和歌山市鷺森1番地 本願寺鷺森別院内 TEL(073)422-4677 URL <http://saginomori.or.jp/>



伝灯奉告法要についての消息を親読される専如門主(鷺森別院)

専如門主がご巡拝

10月1日スタート 伝灯奉告法要に向け

み教えを次世代へ…願い伝える

10月1日から西本願寺で始まる「伝灯奉告法要」を前に、第25代専如門主が4月27日に鷺森別院、翌28日に日高別院をご巡拝。両別院で行われた記念式典と行事に多くの参拝者が訪れ、ご勝縁を喜んだ。

専如門主が鷺森別院正門前に到着されると、鷺森幼稚園園児が参道で手作りの旗を振ってお出迎え。

350人の参拝者で満堂となった本堂で行われた記念式典では、昨年1月16日に発布された「伝灯奉告法要についての消息」を専如門主がご親読。その後、教務所長、中岡順忍輪番が随

行長の丸田教雄副総務からご消息を受け取った。

ご門主は、参拝者と一緒



中岡輪番が丸田随行長からご消息を拝受(日高別院)に記念行事を築きましたあと、前に立たれお言葉。

「10月よりの京都の本山本願寺では伝灯奉告法要をお勤めいたします。一人でも多くの方と、浄土真宗のみ教えが今日まで伝わっていることを喜び、次の世代の

方へ伝えていくご縁にしたいと思っております。小さな子どもさんにも一緒にお参りしていただけるようにと準備を進めております。どうぞご参拝いただきたいと思います」と述べられる

熊本地震災義援金

ご協力ください

4月14日に発生した熊本地震によって、19人の門信徒が亡くなり、452カ寺が被災(5月18日現在)す

るなど、宗門でも甚大な被害が出ている。宗派では義援金を募っている。鷺森別院や各寺院にお寄せいただくか、左記の口座宛てにお送りください。

【郵便振替】0100014169957、加入者名「たすけあい募金」
 【銀行振込】ゆうちょ銀行一〇九店、(当座)0069957、名義「たすけあい募金」

※郵便振替、銀行振込とも、通信欄に「熊本地震」と記入ください。

本堂倒壊した熊本県益城町の専寿寺(5月11日撮影、本願寺新報社提供)



【問い合わせ】本山社会部〈災害対策担当〉、電話075(371)5181。

と、参拝者からお念仏の声とともに大きな拍手が湧いた。翌日は日高別院でも記念式典と行事が行われ、200人の参拝者でにぎわった。

⑥⑦面にご巡拝特集
 ④⑤面に伝灯奉告法要特集

阿弥陀さま

ハウツー仏事と私

念珠

門徒としてお寺にお参りするときに、研修会などに参加するときの持ち物の3点セットである聖典、念珠、式章のうち、今回は念珠についてお話しします。

念珠は数珠あるいは珠数ともいわれ、仏さまにお参りするときに大切な法具で、念珠を持つことは仏教徒としての証しでもあります。

本願寺第8代蓮如上人が吉崎御坊(福井県あわら市吉崎)におられたころのこと。蓮如上人は、近ごろの当山の念仏者のありさまを見ると、珠数一つ持つ人がないと嘆いておられます。

『御文章』二帖目五通の「珠数の章」に、
「珠数の一連をももつひ

となし。さるほごに仏をば手つかみにこそせられたり。聖人(親鸞)まつたく『珠数をすてて仏を拝め』と仰せられたることなし」(註釈版聖典1-116※)と言われるのがそれです。

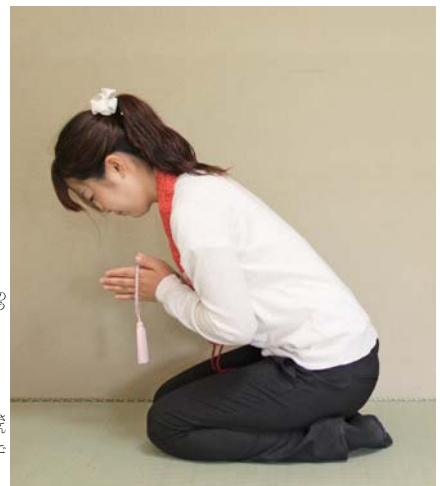
珠数を持たずに仏さまに手を合わせることは、仏さまを手つかみにするようなもので、大変失礼なことです。親鸞聖人も珠数を掛けたらと云うので、念珠の起源はよく分かりませんが、中国の隋か唐の時代が初めとも。



男性用⑥と女性用念珠⑧の形状の違いにご注意を



合掌礼拝の動作。①合掌し、お念仏↓②礼拝↓③合掌の姿勢に戻る



大切な法具 仏教徒の証し

合掌礼拝は美しい姿で

浄土真宗では、珠の数に決まりはありません。

浄土真宗本願寺派でご門徒の方が用いる念珠は、男女とも一輪を基本とします。ただし、女性の場合は二輪(二連珠)を用いることもあります。

念珠の起源はよく分かりませんが、中国の隋か唐の時代が初めとも。

ある経典には、「百八珠を最勝となす」と説かれ、人間の煩惱を分類した数である108を基本にするとも言われますが、

念珠の材料は、高価な物では、琥珀、水晶、翡翠、瑪瑙、真珠、珊瑚など。菩提樹などの木の実、白檀のような香木、紫檀や黒檀などの唐木、安価な物では、ガラス製、プラスチック製などさまざまあります。好みまでお選びください。

僧侶の場合は、法要・儀式の際は、装束念珠といわれる二連珠を用います。

合掌礼拝の作法

①合掌 背筋を伸ばし、両手を合わせ、指をそろえて伸ばし、みぞおちの辺りに軽く付けます。その際、あまりひじを張らないように注意します。お念珠は必ず両手に通し、親指と人さ

し指の間に掛け、両方の親指で上から軽く珠を押さえ、房は下に垂らします。

このとき、合掌した手と上半身の間の角度を約45度とし、目は礼拝の対象であるご本尊を恭しく仰ぎます。

②お念仏 そのままの姿勢でお念仏を称えます。称える回数に決まりはありません。ひと息半が目安です。

③礼拝 お念仏を称えおえたら、上半身を前に約45度傾けます。合掌した手が畳と水平になるところまで前傾します。

このとき、頭を下げるというよりも、合掌した形はそのまま、腰を支点に上半身ごと傾けるという意識を持つことが大事です。

④合掌の姿勢に戻る 気を抜かず、合掌の姿勢を保ったまま上半身を起し、合掌を解きます。

合掌のとき以外は念珠は左手に持ち、腕輪念珠は左手首に着けます。聖典と同様、大切に扱いまししょう。

(松本教智・「御同朋の社会をめぐす運動」和歌山教区委員長)

新 祖蹟点描

11 比叡山 法華総持院



法華経を納め密教の仏さまを安置する法華総持院東塔

顕密両宗の一致表す

そのとき一座を代表して舍利弗が、どうかその法をお説きくださいと3度まで懇願し、釈尊はついに口を開かれようとする。

その矢先、5000人が席を立つ。この者たちは慢心して聞く必要がないと思っただのか、聞くのが怖かったのか、釈尊に礼拝して出ていったのである。釈尊はご説法を始められ

と同じように仏と成ることができるのである。

しかし、そう説けば人々は混乱するに違いないと思いい、方便として三つの乗り物を説く。だが本当はただ一つの乗り物(一乗)だけがあり、第二、第三の乗り物は存在しないのだ。

ある大長者の家が火事になったとしよう。彼は外に出て難を逃れるが、炎に包まれた大邸宅の中では何10人もの子供たちが夢中で遊んでいる。彼はすぐ外に出るよう呼び掛けるが、火事の恐ろしさを知らない子供たちは、その言葉を聞くとうとしない。

彼は一計を案じ、外にはおまえたが欲しがっていら羊の車、鹿の車、牛の車のおもちゃがあると、子供たちを誘い出す。

子供たちは、われ先に外に飛び出してきて、お父さま、私たちに楽しい乗り物を下さいと言おう。しかし、彼が実際に子供たちに与えたのは、おもちゃの車ではなく、本物の白い牛が引く、豪華極まりない車だった。

燃え盛る家(火宅)にいるのに、苦難を苦難とも思わずにいる者たちをあわれみ、私は望みに応じて声聞、縁覚、菩薩の三つの救いの道を説く。しかし本当はただ一つの救いがあるだけなのである――。

法華経の根底にあるのは、すべての衆生が仏に成る道がすでに完成されているという、驚くべき理法である。ここで浄土真宗の教えとの類似性を感じるのには、私だけであろうか。

親鸞聖人は比叡山で法華経を学ばれながら、やがて比叡山を下り、無量寿経こそ真実の教えとされる道を開いていかれることになる。

【参考文献】渡辺照宏『法華経物語』(大法輪閣)

(本紙編集部)

新

比叡山根本中堂(一乗止観院)から戒壇院の前を過ぎ、左へ20分ほど行くと、52段の石段がある。その石段を上りきると、法華総持院という比較的新しい堂宇が立ち並ぶ場所に出る。

堂宇の中心をなす東塔は、伝教大師最澄が日本に6つの塔を建て、法華経を各一千部納めたうちの総塔。法華総持院の名は、法華は法華経を、総持は密教を表し、伝教大師が法華(顕教)と密教の一致を説かれたことに由来するという。

前回取り上げた「顕密両

宗の教法を習学す」、親鸞聖人が比叡山において顕教と密教の両方を習学されたという『報恩講私記』の言葉が思い出されてくる。

それにしても比叡山の中心はやはり法華経である。比叡山ではウグイスも「法華経」と鳴くというが、私たちも少し法華経について勉強しておきたい。

法華経(妙法蓮華経)の舞台はマカド国の都・王舎城にある靈鷲山。晩年を迎えられた釈尊は、無数の聴衆を前に口を開かれる。私のさとした法は深遠で説明しがたい。だから、今まではそれぞれの機根に応

天台宗の根本聖典 法華経の教え

じて、方便として三乗の教え、つまり声聞(教えを聞いてさとする者)、縁覚(自分一人さとするのをよしとする者)、菩薩(自分一人さとするのをよしとせず、あらゆる衆生をさとりに至らせらることを願ひ活動する求道者)それぞれのための教えを説いてきたのだと。

その場にいる者たちはいぶかしがった。今まで聞いてきたのは真実の教えではなかったのか。

比叡山 法華総持院

場所 滋賀県大津市坂本本町4220

交通 京都駅でJR湖西線に乗り換え13分、「比叡山坂本」駅下車、同駅前から江若バス・ケーブル坂本線で7分、「ケーブル坂本」駅下車、坂本ケーブルに乗り換え11分、「ケーブル延暦寺」駅下車徒歩15分。

電話077(578)0001(代)

西本願寺で
10月1日～

伝灯奉告法要

いよいよ
スタート

法統 親鸞聖人から専如門主へ

2014年(平成26)6

月6日、第24代即如門主から第25代専如門主へと法統が継承された。

これを受けて、いよいよ10月1日から専如門主「伝灯奉告法要」が、10期(1期8日間)80日80座にわた

り、京都の本山西本願寺において修行される。専如門主へと法統が継承されたことを仏祖の御前に

告げるとともに、浄土真宗の教えが広く人々に伝わることを願い、宗門の新たなスタートとしてお勤めされる大法要である。

正しい教え 連綿と継承

宗門における法統継承とは、宗祖親鸞聖人が顕かにされた浄土真宗の正法と本願寺住職および浄土真宗本願寺派(宗派)門主の職を受け継ぐことである。

親鸞聖人は、『教行信証』に「しかるに愚禿の鸞、建仁辛酉の曆、雑行を棄てて本願に帰す」(『註釈版聖典』472頁)と記

一昨年6月の法統継承式の日
お祝いムードの西本願寺境内



は、法然聖人から『選択本願念仏集』の写と真影の図写を許され、このことはまさに親鸞聖人が他力念仏の教えを継承するものだった。第3代覚如宗主は1331年(元弘元)に『口伝鈔』を著され、『三代伝持の血脈』を表明。血脈とは法脈のことで、浄土真宗の正法の継承を血のつながりに例えたもの。

他力念仏の教えが法然聖人から親鸞聖人へ、親鸞聖人から第2代如信宗主へと、三代にわたり正しく伝えられたことを示すものだった。

それから今日に至るまでの永き間、歴代宗主のもとで連綿と浄土真宗の正法が受け継がれているのである。

親鸞聖人から専如門主へと脈々と法統が継承されていることを、私自身のよう

こびとして深く受け止め、私自身の新たなスタートとして、ともどもに伝灯奉告

法要へお参りしたい。

御影堂門横に立つ伝灯奉告法要を知らせる高札



「うけつぐ伝灯 伝えるよろこび」
スローガンに掲げ

法要は午後2時～両堂で

伝灯奉告法要は全日午後2時から(1日1座)。

阿弥陀堂と御影堂の両堂を同時進行で法要が勤められるのが特色で、団体参拝

を中心に、両堂合わせて1日約2400人が参拝予定。

和歌山教区からは、10月

▽3時～伝灯のついで▽3時30分～退出。

引き続き帰敬式

希望者は法要に引き続き、午後4時30分から御影堂で帰敬式を受けられる。

▽午後1時～入堂(阿弥陀堂、御影堂)▽1時45分～日程説明、あいさつ、

布教▽2時～伝灯奉告法要

間)に帰依することを誓い、剃髪に擬した「おかみそり」を受けられる。

これにより正式に仏教徒、浄土真宗門徒となり、仏弟子としての名である「法名」を授かる。

伝灯奉告法要参拝に合わせ受式する場合は、参拝の2カ月前までに申し込みが必要。詳細は各寺院まで。

伝灯奉告法要 期日

- 2016(平成28)年
- 第1期 10月1日～8日
- 第2期 10月20日～27日
- 第3期 11月4日～11日
- 第4期 11月18日～25日
- 2017(平成29)年
- 第5期 3月7日～14日
- 第6期 3月28日～4月4日
- 第7期 4月11日～18日
- 第8期 4月25日～5月2日
- 第9期 5月9日～16日
- 第10期 5月24日～31日

協賛行事七注目

西本願寺の歴史と文化に触れる

伝灯奉告法要では、多くの協賛行事が開催される。国宝・重要文化財(書院・飛雲閣)の特別拝観、国宝飛雲閣における慶讃茶席、梵鐘体験、お茶所における布教リレーや仏事相談、本山前の龍谷ミュージアムにおける特別展「浄土真宗と本願寺の名宝」など。参拝の一日は、法統の継承を喜ぶとともに、本願寺の歴史と文化に深く触れるひとときとなるだろう。

特別拝観

西本願寺書院と京都三名閣の一つに数えられる国宝飛雲閣が特別公開され、自由に拝観できる。

慶讃茶席

国宝飛雲閣では、慶讃茶席が設けられる。

午後3時30分から5時まで。

初参式

【定員】各回50人、茶席懇志1人2000円が必要。

お子さんの誕生や初参りなどを縁として、お子さんを中心に参拝される家族を対象に、御影堂で初参式を行う(要事前申込)。

【日程】午前10時、お勤め(讃仏偈)。同15分、法話。同25分、記念撮影(御影堂内、ご門主ご臨席)、同30分、記念品交付、終了。

【日時】2016年10月2日、同23日、11月6日、同20日、2017年3月12日、4月2日、同16日、同日、5月14日、同28日。

梵鐘体験

法要期間中、午前5時30分、午後1時の2回、それ

ラジオ放送番組
みほとけとともに
-西本願寺の時間-

| | |
|--------------|-----------|
| ◆毎週土曜日 | 午前5時50分から |
| -和歌山放送(WBS)- | |
| 和歌山・串本 | 1431kHz |
| 田辺・すさみ | 1233kHz |
| 橋本・高野山 | 1485kHz |
| 新宮・御坊 | 1557kHz |

お茶所行事

それぞれお晨朝(朝のお勤め)と伝灯奉告法要の1時間前に、梵鐘つきを体験できる。各8人を募集(要事前申込)。

特別展

境内お茶所内では、布教使が「布教リレー」として午前9時から各15分の法話のリレー。仏事相談ブースも同時刻から設けられる。

西本願寺向かい側の龍谷ミュージアムでは、伝灯奉告法要を記念して、浄土真宗本願寺派と本山西本願寺が伝えてきた貴重な法宝物



国宝飛雲閣で行われる慶讃茶席(写真⑥は昨年の宗祖降誕会での茶席)



鐘楼では梵鐘つき体験も



龍谷ミュージアムで特別展

春季特別展は、2017年3月4日から6月11日まで(87日間)。
【入館料】一般1200円、高校・大学生800円、小・中学生400円(予定)。なお、伝灯奉告法要参拝者は、一律500円となる。

や、華麗な王朝文化を彩る数多くの文化財で構成する展覧会「浄土真宗と本願寺の名宝」が、秋季と春季の2期に分けて開催される。この展覧会には、私たち紀州念仏者の宝として、約500年大切に受け継がれてきた「尊像」(親鸞聖人と蓮如上人の連座の御影)も出展される予定。
【会期】秋季特別展は、2016年9月24日から11月27日まで(60日間)。

御坊幼稚園園児と歌でご交流



ご消息を親読されるご門主

ご門主お迎え 喜びのご勝縁

懇談で貴重な体験 お言葉に感激



日高別院ご巡拝では、「次世代を担う人の育成—子どもにお法を伝えるには—」というテーマで、ご門主さまと御坊組内僧侶・門信徒6人との懇談が行われ、私は天性寺門徒で御坊幼稚園保護者であることから、この懇談に出席するご縁を



日高別院ご巡拝では、「次世代を担う人の育成—子どもにお法を伝えるには—」というテーマで、ご門主さまと御坊組内僧侶・門信徒6人との懇談が行われ、私は天性寺門徒で御坊幼稚園保護者であることから、この懇談に出席するご縁を

ご門主さまは、私の不作法な発言にも丁寧にお答えくださり、例えば食事の際に家族で手を合わせて食前・食後の言葉を唱和するなど、日常生活の中でできることの積み重ねが大切だとおっしゃいました。

何かしなければという焦りばかり感じていた私が、当たり前のことを続けていくことの大切さに気付かされ、ふっと肩の力が抜けた瞬間でした。短い時間でしたが、ずっと心に残るような大変貴重な経験になりました。岩中香織(御坊組天性寺門徒)



懇談のテーマは「和歌山教区の現状と伝道の在り方」。少子高齢化や都市部への人口集中など、社会情勢が大きく変化する中、これからのようにみ教えをお伝えしていくか、どのような活動が大切になってくるかについて意見交換がなされた。これまで受け継がれてきた良き伝統を大切にしつつ、地域や時代に合った工夫を凝らすことが必要であるということや、お寺からの積極的な情報発信の重要性、参詣者と協力しあうて行事を企画運営していく姿勢が

懇談のテーマは「和歌山教区の現状と伝道の在り方」。少子高齢化や都市部への人口集中など、社会情勢が大きく変化する中、これからのようにみ教えをお伝えしていくか、どのような活動が大切になってくるかについて意見交換がなされた。これまで受け継がれてきた良き伝統を大切にしつつ、地域や時代に合った工夫を凝らすことが必要であるということや、お寺からの積極的な情報発信の重要性、参詣者と協力しあうて行事を企画運営していく姿勢が

時代の変化に即応した伝道や寺院の在り方について、ご門主さまが平生から心を砕かれていた様子やうかがうことができたことも得難い体験で、出席者にとってはまたとない尊いご縁となった。伊井智雄(和歌山組極楽寺住職)



境内に桜の木を記念植樹されるご門主



丸田教雄随行長のあいさつ



佐々木法雨師による記念布教



ご門主到着、鷺森幼稚園園児がお出迎え

鷺森別院ご巡拝



鷺森幼稚園園児が歌を披露



参拝者と記念行事を楽しめるご門主



真宗落語を演じる笑福亭仁智さん

日高別院ご巡拝



お言葉を述べられるご門主



御坊幼稚園コーラスを指導されているお二人の二重唱



ご門主、御坊幼稚園園児とタッチでお別れ



御坊幼稚園保護者による合唱



あいさつをする中岡順忍輪番

青色青光

138人が春の近江で研修

有田北組仏教婦人会連盟

有田北組仏教婦人会連盟 帰りの研修旅行を行った。
は5月24日、毎年恒例の日 参加者は、同仏教婦人会



本願寺八幡別院の本堂前で記念撮影
(バス①号車の皆さん)

八幡別院参拝、町並み散策も

員ら138人。大型バス3台に分かれて、春の近江へと出発。

一行はまず本願寺八幡別院(近江八幡市北元町)に



近江八幡の町並みを散策

参拝。本堂でお勤めし、別院の沿革についてのお話を聞いた。県指定有形文化財である表門、鐘楼を見学。

旅行の醍醐味でもある食事は、地元近江牛を堪能。

その後は近江八幡の町並みを散策し、「三方よし」の近江商人の精神を肌で感じた。最後にラコリーナ近江八幡に立ち寄り、帰路へ。見聞を広め、相互の親睦を深める1日となった。

同仏婦連盟では、毎年5月の研修旅行で浄土真宗ゆかりの寺院に参拝している。



5月20日 鷺森別院降誕会に出演

お寺へイコーラス♪

歌を通して結ぶ絆、広がるご縁

参加者募集しています

皆さんこんにちは！ 私たちは、和歌山組仏教婦人会が中心となって立ち上げた『お寺へイコーラス』というコーラスグループです。この名前は、「お寺へ行こう!」の「行こう」を和歌山弁で「いこら」と表現し、これに「コーラス」を合わせて『イコーラス』とネーミングしました。

◆問い合わせは、和歌山組仏教婦人会連盟委員長の島村美穂まで。電話073(436)3066。

『雑色雑光』創刊

御坊組

御坊組は5月1日に『雑色雑光』(2015(平成27)年度を振り返って)を初めて発行した(写真)A4判30ページ。

これは御坊組広報伝道部が開設・運営しているホームページの内容を幅広い世代に知ってもらおうと、昨年度1年間に掲載された記事から抜粋したもの。御坊組の年間行事や組内寺院の活動が分かりやすく紹介されており、2016年度行事予定や一語法話も掲載されている。御坊組のホームページ(<http://goboso.org/>)でも見ることが出来る。



盛大に本堂再建20周年記念法要

鷺森別院

喜びの日に127人が帰敬式受ける

鷺森別院で5月15日、本堂再建20周年記念法要を、恒例の二尊会と併修して盛大にお勤め。これに合わせて帰敬式と記念の集いを行った。



喜びの法要に大勢のお寺さんが出仕

青色青光

鷺森別院の現本堂は、1994年(平成6)10月4日に竣工し、翌1995年4月8、9日にご門主ご親修による本堂落成慶讃法要が勤修された。

落成法要から20年が経過した昨年、本堂や境内建物の屋根瓦、壁面などに損傷箇所が多数見つかり、1月から4月にかけて補修工事を実施。ようやく喜びの日を迎えることになった。



藤井邦麿師の法話

午後1時30分からの法要は、中岡順忍輪番が導師を務め、教区内僧侶31人(奏楽人含む)が出勤、参拝者とともに、「正信念仏偈作法」をお勤めした。法要の表白で中岡輪番は、「本堂再建時の想いを絶やすことなく、次の世代にみ教えが伝わり、自他共に心豊かに生きることできる社会の実現に貢献したいと思います」と述べた。お勤めのあとは、藤井邦麿師(大分教区)の



厳粛な雰囲気で行われた帰敬式

厳粛な雰囲気で行われた帰敬式

別院で恒例の宗祖降誕会

本堂で門徒総代会の集い



本堂で門徒総代会の集い

本堂で門徒総代会の集い

法話を聴聞した。法要に先立ち、午前10時50分からは、本堂で帰敬式が行われた。厳粛な雰囲気の中、和歌山教区内のご門徒127人が受式。法名を授かり、門徒としての自覚を新たにされた。

掲示板等寄贈に感謝状と記念品

午後1時から行われた「集い」では、記念法要にあたり、鷺森別院に伝道教化掲示板、山門幕、1階書院御簾を寄贈された下記の方々に、中岡輪番から感謝状と記念品が贈呈された。なお、二尊会は今年も5月13日から16日までの4日間勤められ、法要期間中の午前には和歌山教区の各教化団体の集いを本堂で開催。13日に寺族女性会総会、14日に仏教壮年会総会、16日は仏教婦人会総会がそれぞれ行われた。

5月20日、鷺森別院で恒例の宗祖降誕会を午後1時30分からお勤めし、宗祖親鸞聖人のご誕生をお祝いした。

午前中の鷺森幼稚園の集いでは、園児が歌でお祝い。荒木照子さん(真宗保育学会理事)の講演を聞いた。

午後の門徒総代会の集いでは、寺院責任役員・門徒総代辞令伝達式、引き続き年次総会が開催された。

郷流十方

7~9月の催し

本山

8月6~10日 朝の法座
(大谷本願)

8月14~15日 孟蘭盆会

8月15日 戦没者追悼法要・夏御文章御収軸式

9月9日 任職・開教使退任式

9月18日 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要(東京・国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑)

9月19~25日 秋季彼岸会

9月20日 お裏方様ご誕生日

9月27日 任職補任式

和歌山教区

7月1日 特別法務員・法

- 7月4~5日 第3ブロック務員研修会(鷺森別院)
- 7月9日 平和を希う念仏者の集い(和歌山市民会館)
- 7月7日 仏教婦人会連盟清掃奉仕(鷺森別院)
- 7月12日 本派社会福祉推進協議会和歌山教区支部総会(鷺森別院)
- 7月15日 門徒推進員間法の集い(鷺森別院)
- 7月16日 寺族青年の集い(鷺森別院)
- 7月25~26日 児童念仏奉仕団(本願寺)
- 8月18日 布教団連続法座(鷺森別院)
- 8月28日 第2ブロック門徒総研修会(海南市民交流センター)
- 9月1~2日 第3連区布教使研修会(奈良教区)
- 9月3日 第3ブロック門

教区内各組

信徒総研修会(紀南シティプラザ)
9月6~8日 第40回全国寺族青年軟式野球大会(京都)

和歌山組

7月未定 寺族女性会例会(西覚寺)
7月30日 組内会、夕食会(安愚楽)

9月26~27日 和歌山組念仏奉仕団(本願寺)
9月未定 寺族女性会例会(法林寺)

和歌山東組

7月30日 第1回和歌山東組キッズサンカ(桃善寺)

和歌山西組

7月3日 第9回和歌山西組キッズサンカ(鷺森別院)
7月10日 第16期連続研修会⑧(西教寺)
8月7日 組内会(建徳寺)
9月4日 第16期連続研修会⑨(建徳寺)

和歌山北組

7月3日 第12期連続研修会開催に伴うスタッフ会議①(慶圓寺)
7月16日 第12期連続研修会①(慶圓寺)
8月28日 第12期連続研修会開催に伴うスタッフ会議②(慶圓寺)
9月10日 第12期連続研修会②(永正寺)
9月25日 第3回組内会(慶圓寺)

加茂組

7月9日 第15期連続研修会⑤(教徳寺)
7月24日 加茂組仏教壮年会総会・研修会(青蓮寺)
8月6日 第15期連続研修会⑥(願称寺)
9月3日 第15期連続研修会⑦(徳願寺)

海南組

8月下旬 海南組キッズサンカ(了賢寺)

海草組

7月2日 海草組門徒総代会総会、寺族女性会・仏教

婦人会・仏教壮年会合同研修会(報徳寺)

伊那組

8月22日 伊那組キッズサンカ(教善寺)

有賀組

7月30日 組内会(専念寺)
9月8~9日 第18回有賀組念仏奉仕団(本願寺)

有田南組

9月未定 有田南組キッズサンカ(教専寺)

有田北組

7月16日 門信徒研修会(浄満寺)

日高組

7月31日 お寺でフルーツカッティング(即生寺)
8月6日 第9期連続研修会⑩(日高別院)
8月7日 お寺でフルーツカッティング(専福寺)
8月20日 日高組子どものつどいキッズサンカ(長覚寺)

御坊組

8月19日 御坊組キッズサンカ(日高別院)

紀南組

9月20~21日 紀南組念仏奉仕団(本願寺)

得度

6月 島 祐(和歌山組西覚寺)
栗本香代子(和歌山西組徳号寺)
北條薫(和歌山西組浄福寺)
三原摩利子(御坊組浄国寺)
庵戸英俊(紀南組安楽寺)

教師

4月 荻野亮子(海草組教蓮寺)
伊藤明子(御坊組安楽寺)

敬弔

4~6月 刀禰諦存(海草組積善寺・住職) 4月17日
蘭田坦(和歌山組妙慶寺・衆徒) 4月22日
三浦憲雄(有田北組極楽寺・前任職) 6月15日
ご生前のご活躍ご尽力に感謝申し上げます。謹んで敬弔の意を表します。

第23回

ねが 平和を希う念仏者の集い

—全戦没者追悼法要—

ご参加
ください

7月9日 今年は和歌山市民会館で

「御同朋の社会をめぐす」
運動」(実践運動) 和歌山
教区委員会は、毎年恒例の
「平和を希う念仏者の集い」を会

「全戦没者追悼法要」を

7月9日、今年は和歌山市
民会館小ホール(和歌山市
伝法橋南ノ丁7番地)を会

場に開催する。

午後1時30分から追悼法
要をお勤めし、2時20分か
ら、かりようびんが鷺森に
よるコーラス仏教讃歌。引
き続き3時10分から約1時
間、安齋育朗さんの「現代
日本にとっての非戦・平和
を考えるー過去に現在を見
現在に過去を見るー」と題
した記念講演を聴く。



昨年の全戦没者追悼法要の様子(鷺森別院本堂)

鷺森別院の催し

常例法座

7月15日、石丸涼道師
(防府市野島・万巧寺)、
16日は未定。8月16日、中
岡順忍輪番(鷺森別院)。
9月15、龍田智師(今治市
本町・称名寺)、16日は未
定。毎座、午後1時30分か
ら、3時30分まで。会場は
1階書院にて。

盂蘭盆会

8月15日、午後1時30分
から本堂で仏説阿弥陀経を

安齋さんは、安齋科学・

平和事務所所長、立命館大
学名誉教授などを務める。

著書に『ビジュアルブック
語り伝えるヒロシマ・ナガ



安齋育朗さん

サキ』全5巻(新日本出版
社)、『福島原発事故ーどう
する日本の原発政策』(か

もがわ出版)など多数ある。

閉会は午後4時10分予定。
この集いは、和歌山教区
が1994年(平成6)7

月8日、戦後50年の節目に、
和歌山市民会館大ホールで
「全戦没者50年追悼法要」
が勤修したのが始まり。

それ以降、和歌山教区で
は、和歌山市大空襲があっ
た7月9日(1945年)
を「平和の日」と位置づけ、
いのちの尊厳と平和を守る
取り組みとして毎年開催し
ている。

お勤め。引き続き、藤本文
隆師(生駒市谷田町・西教
寺)の法話を聴聞する。

秋季彼岸会

9月21〜23日の3日間、
恒例の秋季彼岸会をお勤め
する。毎座午後1時30分か
ら午後3時まで。場所は2
階本堂。お勤めは、仏説阿
弥陀経。引き続き久林高伸
師(大和高田市曾大根・常
徳寺)の法話を聴聞する。

子ども会

9月10日、午前10時から
開催。詳細は鷺森別院まで。

日高別院の催し

秋季彼岸会

9月24日、恒例の秋季彼
岸会をお勤めする。午後1
時30分から仏説阿弥陀経を
お勤めし、引き続き久林高
伸師の法話を聴く。

(本願寺日高別院 御坊市
御坊100 電話0738
122-0518)

(本願寺鷺森別院 和歌山
市鷺森1番地 電話073
1422-4677)

つれもて 聴こしら

法話を聞くことを「聴聞

する」と言います。浄土真宗は、私に向けられた阿弥陀さまのお呼び声である「南無阿弥陀仏」を聞かせていただく宗教であります。

「南無阿弥陀仏」のなかに何を聞かせていただくのかといえば、「仏願の生起本末」を聞かせていただくのだと、親鸞聖人はお示しくださいました。

親鸞聖人は『教行信証』に言われます。

——しかるに『経』に「聞」といふは、衆生、仏願の生起本末を聞きて疑心あることなし、これを聞といふなり。「信心」といふは、すなはち本願力回向の信心なり(『註釈版聖典』251-1-6)

ここでいう「経」とは、

数あるお経のなかで、親鸞聖人が真実の教えとして阿弥陀如来のご本願が説かれてあると示された『仏説無量寿経』のことです。

佐竹隆弘

このお経には、阿弥陀さまが、間違いなく私をお浄土へと救い取って、さとり



「わけ」と、願いに込められた「お心」と、その願いが成就されて、現に私にはたらき掛けていくくださる「はたらき」を指します。私たちの生死とは、この世に生まれてから人生を終えるまでの時間のことだけではありません。このいのちの意味や行方、目的をも

か。いくら私たちの頭で考えても結論には至りません。答えが見つからないという状態が私たちの本質であり、それを阿弥陀さまは、さとりに対して「迷い」と示されました。

見失い、見失っているという自覚すらない私たちに、阿弥陀さまは、南無阿弥陀仏となつて私たちに届いてくださり、一緒にお浄土にかえりますよ、と告げてくださっているのです。

疑いようのない心です。あの人は信心深いとか、信心家だとかいう表現を耳にします。世間で信心といえ、自分の心に何か堅固なものを築きあげることのように理解しがちです。しかし、私たちの心ほど絶えず揺れ動いて頼りにならないものはありません。

いのちの意味と目的告げられる

ています。

「仏願の生起本末」とは、そのように阿弥陀さまが私に向けて願いを起された

含みます。

私たちのいのちは、どのような意味を持っているのか。どこへ向かっているの

ちの意味と目的を、阿弥陀

さまが明確に告げてくださるといふことです。自分の現在地や居場所を

「仏願の生起本末」聞く教え

「信心」といふは、すなはち本願力回向の信心なり」と続けられます。

親鸞聖人がお示しくださった「信心」とは、阿弥陀さまの「あなたを救う」というお心を、そのままわが身に受け止めて聞かせいただくということです。

まさに「仏願の生起本末を聞きて疑心あることなし」ということが、そのまま信心です。そのまますなはち「無信心」といふは、すなはち本願力回向の信心なり(『註釈版聖典』251-1-6)

「仏願の生起本末」を聞かせていただいたならば、私たちは「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」と、阿弥陀さまにお礼申しあげていくこととなります。

お礼申すと同時に、「そのまますなはち、必ず救う」と呼び掛けられている声を常に聞かせていただきながら、阿弥陀さまと共に人生を歩ませていただくのです。(山口県熊毛郡平生町佐賀・極楽寺) 4月15日の鷺森別院常例法座の法話から